

農政の動き 2016年8月6日～8月17日

◇世界のオゾン全量 増加傾向も依然少なく◇

気象庁は「オゾン層・紫外線の年のまとめ（2015）」を発表した。世界のオゾン全量は2000年以降わずかに増加が見られるものの、「依然少ない状況」と指摘。国内のオゾン残量は緩やかな増加傾向にあるものの、紫外線は観測地点の札幌（北海道）とつくば（茨城県）で「1990年以降増加傾向が明瞭に現れている」とした。（2016年8月8日）

◇日本の農業資材価格 韓国より大幅に高く◇

日本農業法人協会は、農業資材価格調査報告書を発表した。日本と韓国との生産資材価格の状況をまとめたもので、日本の肥料や農薬、農機の価格は、韓国に比べて大幅に高いと強調。農業者団体による銘柄を絞った大量購入や低い手数料設定のほか、ジェネリック農薬の登録が簡単にできるなど規制制度に違いがあることなどが要因と分析した。農機は、基本仕様が簡素で型式数が少ないことなどから販売価格の低減が図られていると指摘した。（9日）

◇15年産大豆の生産費 1.4%減の6万2941円◇

農林水産省は、2015年産大豆の10^{ヘクタール}当たり生産費（資本利子・地代全額を含む）は、前年産比1.4%減の6万2941円と発表した。単収の減少で乾燥・調製委託数量が減り、賃借料・料金が減少したことなどが要因。（9日）

◇林野庁 15年特用林産物の生産量を発表◇

林野庁は、2015年特用林産物の生産量（速報値、主要品目）を発表した。キノコ類では、マツタケは対前年比169%となり、ヒラタケ（140%）、ナメコ（105%）、生シイタケ（101%）も前年を上回った。乾シイタケ（83%）、エノキタケ（97%）などは減少した。その他食用では、タケノコが80%だった。（10日）

◇ラニーニャ 秋の終わりまでに発生の可能性◇

気象庁はエルニーニョ監視速報を公表した。現状は「平常の状態」だが、秋の終わりまでにラニーニャ現象が発生する可能性が高いとした。ラニーニャは、南米ペルー沖の監視海域の海面水温が基準値より低くなる現象で、発生時の10～12月の天候は、平均気温が東日本で低く、降水量は西日本太平洋側で少ない傾向が見られる。（10日）

◇6、7月の豪雨被害を激甚災害に指定◇ 政府は閣議で、6月6日から7月15日までの豪雨被害を激甚災害に指定した。被災自治体による農地などの災害復旧事業への国の補助率をかさ上げする。農地などの復旧事業費の査定見込額（8月10日現在）は、全国で約169億円に達した。（15日）